

◆次第：開会、議事、その他

◆議事：①基本計画【各論】(素案)について

◆審議概要：

①基本計画【各論】(素案)について

【環境】

<環境保全>

- 環境省が提唱する「COOL CHOICE」という言葉を盛り込んでどうか。
→施策(4)、「〇」1つ目で、「環境教育・学習を推進します」としており、その中で、「COOL CHOICE」も進めていきたいと考えている。
→宝塚らしさや宝塚の特徴を出した記述の方が、近隣自治体との違いを打ち出せ、アピール力がついてくるのではないか。
- めざすまちの姿に「人の営みと自然がつながっている」とあるが、対応する施策がないのではないか。
- 現状と課題(1)で、目標達成が困難とあり、諦めている印象を受ける。課題はあるが状況を受けて取り組んでいく、というような書きぶりにした方が前向きな文章になるのではないか。
- 現状と課題(2)、生物多様性の実態を把握するための基礎調査に多くの時間を要するとあるが、10年先を見据えた計画であるのに、このような記載をしても良いものか。
- 施策(2)、「〇」3つ目、特定外来生物の適正な駆除とあるが、例えばオオキンケイギクという特定外来生物の駆除にかかる具体的な取組や方針がないので、どこかできちんと示すことが必要である。
→確かにホームページ等で具体的な取組や方針は示していないが、実際に市民と一緒にオオキンケイギクの駆除を行っており、取組を進めていきたいと考えている。
→誰が駆除を行うのかという話になるので、「駆除体制を整える」という言葉を追加してもらいたい。
→「協働の体制づくりなどを整え駆除を進める」というくらいの表現で記載できるのではないか。
- 施策(2)の成果指標2つ目について、アンケート結果の漠然とした指標ではなく、例えば、レッドデータブックのAランクの数を減らすなどの方が良いのではないか。
- 施策(4)の学校における環境教育の推進にあたっては、学校現場に合う形で負担にならない方法をとってほしい。
- 田んぼと人のつながり、山と田んぼのつながりで維持されている生態系は非常に脆弱であり、それをどう守るかが最終的に生物多様性の保護につながると思う。そのあたりをどこかに盛り込んでほしい。
→施策(4)に環境に配慮した暮らしづくりみたいなのが入れられないか。
→1つ1つの施策が個別に見えるため、ネットワークやつながりがといった話が一文でもあれば印象が違うと思う。
→協働という言葉も随所で欲しい気がする。
→産業や観光と環境保全が繋がれば新しいストーリーも書けると思う。他部署や市民にアピールできるような書きぶりが1つでも2つでも補強できれば良い。
- 環境基本計画と総合計画の柱の立て方が異なっており、担当課もやりづらいのではないかと思うので、今後はそのあたりも検討しながら計画づくりをしていってほしい。

<循環型社会>

- 循環型社会というと、例えば、医療とか食品、リサイクルショップなどごみ問題以外の問題もあるのではないかと。「循環型社会」はもう少し意味合いが広く、言葉の重みがあると思う。「循環型社会」イコールごみと考えるのは現在の意味合いからすれば問題があるのではないかと。
 - 若い方は当たり前のように、リサイクルショップなどを利用している。当たり前の行動の中で循環型社会に持っていける仕組みや仕掛けがこれから必要ではないかという提案だと思う。
 - リサイクルできるから作って良いというわけではない。使わない、ごみを出さないという2Rに重点を置くべきだと考えている。
 - 思い切って3Rから2Rにしてしまうことも考えられる。アップサイクルという言い方もある。宝塚市らしい新たな仕組みづくりみたいなものでアピールできないか。
 - 施策の方向性をさらっと書きすぎている。文章の加筆、文言を変えることで、見栄えも違ってくる。

<都市美化・環境衛生>

- 施策（1）の成果指標、「宝塚を美しくする市民運動」参加者数は何を基にカウントしたのか。
 - 自治会の会員数を基にカウントしている。
 - 成果指標のめざす方向性を増加としているが、そうであれば、自治会の加入率を上げない限り、参加人数は多くならない。参加者数ではなく、参加団体数としてはどうか。
- 施策（2）はペットではない、アライグマやハチといった害獣・害虫駆除についても記載した方がよいのではないかと。
 - ハチについては、施策（2）、「○」2つ目の「害虫発生の未然防止を図ります」で対応している。アライグマは鳥獣にあたるため、農業施策での対応となってくると思う。

【観光・産業・文化】

<観光>

- 市民自ら観光資源を掘り起こし、発信している人もいる。市民と一緒に発信していくという、何かそういう文章が含まれたら良いと思う。
 - 情報発信していく上では、オーバーツーリズムにも気をつけないといけない。地域の方のご理解や合意形成も必要となる。
 - コロナの影響で、今までと同じパターンの観光の組み立てができなくなる。新しい形を考えないといけない。
- 観光客だけでなく、市民が楽しめる場づくり、環境整備の要素を入れてほしい。
 - マイクロツーリズムに近い考え。地域の方々が地域を巡って、お金を落とすという考え方を施策（3）で追加できないか。
- 観光資源の発掘、見直し、利用方法、ハードとソフトなど、そういったものをきちんと整理し直した上で、発信していく必要があると考えるが、そのあたりの方向性が示されていないと思う。
 - 施策（1）地域資源の磨き上げと掘り起こしとしており、また、コンテンツ開発に取り組むことも記載しており、そのあたりの方向性は盛り込んでいるつもりである。
 - コンテンツの注釈があるがそのような説明になっていないので工夫してもらいたい。

- 観光入込客数について、カウントの仕方は色々あると思うが、コロナの影響等があるこの機会に、より実態に即した数字の把握について検討してもらいたい。

<農業>

- 現状と課題において、農家戸数が減少しているところとある一方、成果指標において、集落営農組織数を増やすとしているが、このあたりの関係や考え方について整理が必要ではないか。
- 施策（1）に次世代の担い手を確保しますとあるが、世代継承のように見えるので、新しい人の参入、新しい担い手のような表現にしてもらおう方が、国の施策の方向性ともあってくるのではないか。
- 植木の農地の面積が減っている。これも一つの指標になるのではないか。また、植木産業は宝塚市の特徴なので、現状と課題で触れても良いのではないか。
→花卉植木は宝塚の地場産業であり、柱を1本増やすか、内部で議論したが、西谷の農業、南部の都市農園、花卉植木はいずれも農業に含まれるという結論に至った。
- 現状と課題（3）の農地の有する多面的機能について説明を加えていただきたい。
- 感染症に関連した記載がある施策分野があるが、各施策分野の中で記載するのか、基本計画の頭の部分で記載するのか、議論した方が良いと思う。

<商工業>

- 商業を活性化するためには、商業者を元気づけるだけでなく、消費者の意識も変えていかないとはいけないと思う。「消費生活」の施策分野において、そのあたりのことを盛り込みつつ、「商工業」の施策分野においても消費行動を促す施策と連携するというような内容を盛り込んでもらいたい。

<雇用・労働環境>

- 雇われるだけでなく、自分で仕事を作り出すというようなニュアンスをもう少し記載できないか。労働環境は誰かが整えてくれるのではなく、自分で整えていくという発想もこれから必要と思う。
- 最近、ワーク・ライフ・バランスは、ワーク・ライフ・インテグレーションという概念に進化している。10年後を見据えて、一歩踏み込んだ書きぶりにできないか。
- 住んでいる場所が職場になるというところも増えてくると思う。そうなると近くで買い物をする人も増え、2次的なものも生まれると思うので、是非そういうことも進めていただきたい。

<文化・国際交流>

- 文化芸術センターの来場者数が新たな成果指標として加えられたが、既存の文化施設の来場者数も加えてもらいたい。
→既存の文化施設と連携してやっていくというのが基本になる。そういう意図も込め、文化芸術センターの利用者数ではなく、あえて来場者数にしている。
→文化芸術センターは、最初から建物に入ってもらおうというだけでなく、抜け道として使ってもらい、いずれは建物に入ってもらおうというコンセプトがあったと思う。だから、歩いている人、公園に来た人もカウントする。そういう説明を丁寧に伝えていただくと説得力が増すと思う。